令和４年度伊勢原市行財政改革推進委員会第５回会議録

〔事　務　局〕　企画部経営企画課

〔開 催 日 時〕　令和５年２月９日（木）午後2時30分から午後４時30分まで

〔開 催 場 所〕　市民文化会館　練習室２

〔出 席 委 員〕　7名
鈴　木　靖　夫（会　長）
青　柳　貞　徳（副会長）
大　川　　要
大　杉　あや子
河　原　啓　子
中　村　隆　志
引　田　道　人

〔事務局職員〕　5名
酒　井　哲　也（企画部行政経営担当部長）
桐　生　尚　直（企画部参事兼公共施設マネジメント課長）
瀬　尾　哲　也（経営企画課長）
山　口　博　巳（経営企画課行政経営担当課長）
都　竹　新　平（経営企画課行政経営係長）

〔公 開 可 否〕　公開

〔傍 聴 者 数〕　なし

《議事の経過》

1　議題

（１）次期定員管理計画及び定数条例における職員数の考え方 及び 伊勢原市職員定数条例の一部を改正する条例(案)について

（２）第６次行財政改革推進計画のパブリックコメント(案)について

（３）公共施設等総合管理計画の改訂及び公共施設再配置プランのパブリックコメント(案)について

（４）第６次総合計画の策定について

2　その他

※質疑応答・意見等は別紙１のとおり

別紙１

１　議題

（１）次期定員管理計画及び定数条例における職員数の考え方 及び 伊勢原市職員定数条例の一部を改正する条例(案)について

	[質　問]	[回　答]
1	定員管理計画の策定作業において、人材は「人財」とも言われるように、職員数だけではなく、職員の質も重要と考えられる。人件費の観点から職員数を管理することもわかるが、質の高い行政サービスを維持するために、専門知識を備えた職員などをどのように確保・育成していくかといった観点からも検討したのか。	専門性の高い職種の確保は課題として認識しているが、定員管理計画においては具体的な確保策等の対応は盛り込んでいない。 別途、行財政改革の取組の中で、職員が真に取り組むべき業務等を精査し、職員数の増加を抑制する中で、業務量の増加に対応しつつ、行政サービスの充実を図るため、アウトソーシングなど民間活力の活用やICT技術の利活用などにより、効率的に業務を執行できる体制の構築に取り組んでいく。
2	定年引上げ制度が始まることにより、人件費への影響はどうなるのか。	６０歳以上のフルタイム職員が増えていくため、今後は人件費が増えていくことが見込まれる。これまでの定員管理計画は、職員数を減らして人件費を削減していくという形であったが、次期定員管理計画では適切な定員管理により、できるだけ職員数や人件費の増え幅を抑制していく考えとなっている。

[意　見]

・　伊勢原市の職員の年齢構成について、中間層が少ないという状況であるが、今後、定年引上げが始まると高齢層職員が増え、さらに偏りが生じると懸念される。
　60歳以上の職員について、定型的な業務への従事ではなく、若手職員の育成や技術・ノウハウの継承など、これまで培ってきた行政経験を活かせるような配置の検討が重要である。
・　民間では、若い職員に責任ある立場に就かせて給料も引き上げるような動きがある。定年引上げにより６０歳以上の職員がこれからさらに増えていく中で、組織そのものを活性化させていくためには、そのようなことも必要ではないか。
・　伊勢原市に少ない中間層の職員について、優秀な社会人経験者を職員として採用し、増やしていくことも考えられるのではないか。

（２）第６次行財政改革推進計画のパブリックコメント(案)について

質問・意見なし

（３）公共施設等総合管理計画の改訂及び公共施設再配置プランのパブリックコメント(案)について

	[質　問]	[回　答]
1	廃止の方針とされている児童館や地域集会所等について、影響する地元自治会との協議は行っているのか。	これまで、地元自治会と児童館や地域集会所等の廃止又は譲渡について協議を行っているところであり、今後も引き続き、丁寧に協議を進めて対応していく。
2	「分庁舎」という言葉は、初めて出てきたような気がするが、分庁舎についての説明を記載すべきではないか。	市役所分庁舎の整備は、子育て支援機能の充実、本庁舎の狭あい化の解消など、市役所庁舎の喫緊の課題に対応するものであり、公共施設等総合管理計画の「施設類型ごとの管理に関する基本的な方針」及び公共施設再配置プランの「市役所庁舎」の見直しの方向性の中に記載する。
3	今後整備する予定の市役所分庁舎の規模について、２階建てで需要を満たすことができるのか。	今後、市民文化会館の改修、消防本部・消防署本署の建替をはじめ、公共施設の老朽化対策に多額の財源確保が必要になると見込んでおり、将来的な財政負担も考慮して、分庁舎の規模等について検討した。 市役所本庁舎の将来的な建替を含む将来を見据えた行政センター地区の再編・再配置については、今後、検討を進める。
4	分庁舎について、行財政改革として行政センター地区の再編・再整備を進めるのであれば、２階建ての分庁舎を増築するというつぎはぎのようなものではなく、もっと大きな視点で全体の建替を検討するなど、１０年先のことを今から検討する必要があるのではないか。	

［意　見］

・　消防の広域化や、市民文化会館の共同利用など、市単独でフルセットで公共施設を保有するのではなく、他市との広域連携を視野に入れて検討を進めていくことも必要であると思う。

（４）第６次総合計画の策定について

	[質　問]	[回　答]
1	市民意識調査を実施したとのことだが、市民にとって伊勢原市の満足度はどの程度であるのか。「住み続けたい」や「是非移り住みたい」など、満足度が高い状態であるのか。年代別や分野別で把握しているのか。	年代別や分野別での市民満足度を把握した。満足度が高い分野もあるが、昨今の情勢から、防災部門や子育て部門は更に高い水準が求められている。 また、伊勢原駅北口地区の市街地再開発事業について、着実に整備を進めてほしいという声が多い。
2	土地利用計画の中で、農地の利活用を検討していくに当たって、農業協同組合と調整等を行い、今後の展望について方向性をすり合わせた方がよいのではないか。	産業基盤を整備するには、場合によっては農地転用も必要となるが、農業を守る立場である農業協同組合の考え方とも整合を図れるように進めていきたい。

3	人口の将来展望について、本市の人口の減少幅を抑えるため、どのように地方創生や移住・定住に取り組んでいくのか。	現行の総合計画においては、様々な分野の施策により、本市の魅力を高めることで結果的に移住・定住者を増やしていくという考え方で、移住・定住に絞った直接的な施策は無かったが、第６次総合計画においては、地方創生や移住・定住に照準を合わせた施策も展開していく予定である。
	基本構想を前提として様々な施策をこれから進めていくことと思うが、基本計画、実施計画については、これから議会に諮っていくのか。	基本計画、実施計画について、令和５年度当初予算案とのすり合わせも終わったところであり、３月定例会で予算が承認されれば、４月から具体的な取組を進める。

２　その他

・令和５年度予算編成に伴う事務事業の点検･見直し結果の概要について（資料配布のみ）

・企業版ふるさと納税（地方創生応援税制）について
　制度概要や本市の取組及び本市への寄付実績等について説明した。

以　上